

# 国際青年

2012年(平成24年)11月1日発行

## 第35号

埼玉国際青年を育てる会・会報

Saitama Association for International Youth Volunteers

## 現地レポート

### عسلامة アッスレーマ

(アラビア語のチュニジア方言「こんにちは」)

■半藤彩香(蓮田市)

22年度2次隊 チュニジア 青少年活動

チュニジアは夏。日本と同様に7・8月が暑く、首都チュニスの気温は45度を超える日もありません。世界遺産のグランドモスクが有名なケロアンでは、60度までの温度計が振り切れる日向……。日陰を求めて街を歩き、夕方涼しくなったら活動！というチュニジア人からのアドバイスはその通り。

◎1.5Lのペットボトルが手放せないチュニジアより、「チュニジア料理」を紹介します。

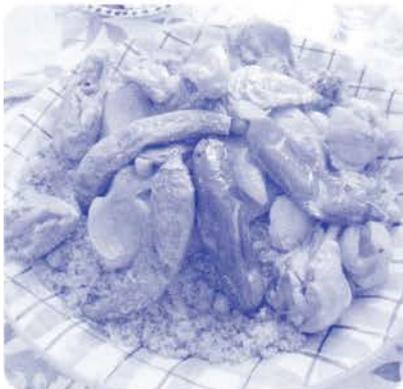
\*

☆チュニジア料理といえば・・・クスクス

クスクスは最小のパスタと呼ばれる食べ物。

お客様へのおもてなし料理として出すことも多いので、初めて遊びに行くお家だと、クスクスを出してくれることが多い！

夏にクスクスの原料となる小麦を購入し、手作り



する家庭もあります。作り方は、小麦粉に水を混ぜて、網目の異なる3つのゴルベーン(ざる)の上で混ぜながらこしていきます。



☆主食はパンが基本

クスクスやスパゲティ、マカロニ、お米も食べます。

お米は長粒米がほとんど。(タイ米、エジプト米、リビア米、イタリア米など)

トマト、ターメリックなどで味付けしています。

☆お肉は、羊肉、牛肉、鶏肉がバルシャ(多い)



モスリー(鶏肉をターメリックで味付けしてオーブンで焼いた料理)

南部ではラクダ、うさぎのお肉も経験しました！

豚肉は…ハラーム(イスラム教で宗教上禁止されているもの)なので、食べません。

チュニおばあちゃんマハブーバ♪彼女の作るモスリーが一番スキ！

野菜はジャガイモ、トマトを入れ、ローズマリーなどのスパイスを入れて味付けしています。

● 35号目次	● 現地レポート.....1~3	● 帰国してから.....6~8
	● 2012年度定期総会.....4	● JICA 理事長表彰.....7
	● 帰国隊員報告会.....4・5	● 新会員のご紹介.....8
	● 平成24年度壮行会.....5・6	● お知らせ.....8

## ☆チュニジア料理の基本は、トマトベース！

ほとんどの料理にトマトペーストを使用し、長時間煮込みます。

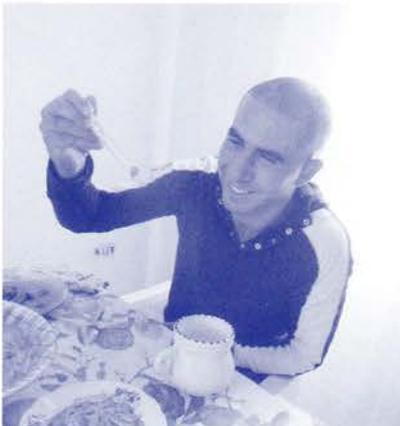
クスクスのソースももちろん、ローズジェルビもトマトソースを作り、蒸かしたお米にソースをかけています。

チュニジア料理はどれもおいしいです♪（個人的な感想ですが☆）私が一番好きなチュニ料理はやっぱりクスクス！各家庭、スパイスの加減で味もさまざま。

日本のお箸を持って、チュニジア人の家に遊びに行くこともあります。

右の写真のチュニおにいちゃんはヒヨコ豆を上手につかんでいました。

チュニジア家庭でワイワイ食事をする時間が大好きで、大人数で食卓を囲むこと＝幸せなことだと感じています。



## ■木村みのり（吉川市）

23年度2次隊 フィリピン ソーシャルワーカー  
フィリピンに来て9ヶ月

フィリピンに来て9ヶ月。計画通りに行かない毎日、待ちぼうけを食らう毎日にも何とか耐えられるようになってきた。

私は、ソーシャルワーカーとして、日本で言えば県庁の福祉局に配属されているが、活動先はその出先機関である、虐待を受けた子どもたちの保護施設「Halfway Home」である。児童相談所の一時保護所のようなこの施設で、子ども達とアクセサリー（収入の一部を学費や活動に充てる）



ティンティン（ほうき）づくり

を作ったり、勉強をしたりしている。

「私はこの木のよう。一人ではどこにも行けないし、ここから動けない。学校に行けば本当の先生がいる。友達がいる。私は、本当はここに来たくなかった。親の暴力なんて耐えられたのに…」と言った子どもがいた。彼女は、とても賢く、いつも私のことを気にかけてくれるような子どもであった。

私が、教える知識なんて彼女には役立つのだろうか…。毎日アクセサリー作りをして、意味があるのだろうか…。ソーシャルワーカーとして派遣されているのに…

日本であれば、自分がいろいろな機関に働きかけ、子どもの将来のためにと動けるが、ここでは何もできない。

そうは思いながら、今は、自分ができることをやろうと悩む日々。



ピクニック

この歳で、青年海外協力隊に参加するのは、迷いもあった。それでも、10年の経験が何かに役立つのではないだろうかとも思っていた。それは早々打ちのめされたが、参加して後悔はない。フィリピンを楽しむ、それが今の目標であり、私にとって一番難しい課題である。

## ■大橋みぎは（ミギワ）(さいたま市)

24年度1次隊 ガーナ 小学校教諭  
チョコとガーナ

教員人生をスタートさせてから3回、現職教員制度による県の青年海外協力隊の試験を受ましたが、どの試験も道を閉ざされました。

昨年の4月、あきらめられない思いを胸に、4回目の試験に挑戦。

これまで見てきた様々な国々で学んだことを生かして、思う存分試験に臨みました。

結果、合格通知をいただき、本当に心から嬉しかったです。

二本松訓練所での生活は、2か月間で、日本を代表してしっかりと働いてくることができるよう

に時間や規律が細かく定められています。

メインは、語学学習、私の派遣先は、公用語が英語なので朝から晩まで英語漬けです。

1 朝 8:45 ~ 11:30 (約 3 時間) Home Class.

英語のレベルに分けて、様々な業種の方と英語の勉強をします。

2 午後 1:00 ~ 3:00 (2 時間) Technical Class.

職種ごとに分かれ、それぞれの専門を英語で説明できるように訓練します。

3 午後 3:10 ~ 5:00 (約 2 時間)

国際協力や保健衛生、開発支援などについての講義を受けます

お菓子会社のチョコレートで有名な、あのガーナ共和国に派遣されます。

赴任先は、首都アクラから約 130 キロ離れたアカチ郡教育事務所です。理科・算数を中心に教育力の向上に向けて活動します。



リコーダーの指導

こちらガーナでは、水が止まることがよくあります。ガーナの北の方では、常に大きなドラム缶のような水溜りに、何杯もの水を貯めておかなくてはならないほどです。私の家でも、水が止まる時を想定して、中くらいのバケツに水を貯めています。

日本にいたとき、シャワーでは最初から最後まで水を流しっぱなしで生活していました。しかし、ここでは、バケツ 1 杯で十分です。そして、井戸水だから生暖かく、沸かす必要もありません。

つまり、電気エネルギーを必要としていない！

同期隊員に PT (Physical Therapist) の方がいますが、ある女性の足を見ながら言いました。「彼女、腰が痛って言うんだけど、あれじゃあ痛みは半端じゃないと思う」

視線の先には、足首が少し内側に曲がっていて、土踏まずがほとんどない女性の姿がありました。

こちらでは、ご存知のとおり、頭に物を乗せて荷物を運びます。なので、バランスをとるために腰が前に出て足も踏ん張ります。すると、とって

も膝・腰に負担がかかる体型になってしまうのです。足・腰に痛みを生じている女性の足首はふくらはぎと同じくらい太くなっています。



ある日、教育事務所周辺の学校に訪問させていただきました。そこで疑問に思ったことは、聾あ者クラス以外、どのクラスも先生が机について座っていたからです。そして、声が出ているわけでもなく、出席簿のようなものを広げ、なにかしらを書いていました。

子供の様子は日本で例えるなら自習のような感じ。

これは、授業中なのでしょうか。指導主事の答えは、「授業中」。そしてこの「先生が立って教えない」のが、ガーナの問題点なんだそうです。

日本では、私は立って授業をしていました。

なぜでしょう。

- 1 黒板に書き、子どもの発言を記録することで、思考の流れを整理し、考えを深めるため。また、学習を理解できていない子どもも、板書を見て確認・復習することができる。
- 2 机間巡視のため。子ども一人ひとりのアセスメントをし、適切な指導を行うことができる。
- 3 全体を把握するため。授業は子どもたちのもの。子どもたちが、理解できるかどうか、目視で確認することができる。
- 4 声を届かせるため。アイコンタクトで言葉を届けたい。その方が、より伝わる。
- 5 模擬実験等を見せるため。一人ひとりが学習(習得)できるように。

それでは、ガーナではこれらをどのようにやっているのでしょうか。「問題」になっていたら、改善されているはずだと思うのです。いよいよ教育事務所に腰を下ろして仕事ができそうなので先生方と相談しながら聞いてみたいと思います。

## ★2012年度定期総会

2012(平成24)年5月19日(土)

国際交流基金・日本語国際センター

不安定な空模様が続いた後の暑い日でしたが、多くの参加者を得て埼玉国際青年を育てる会の定期総会が行われました。司会の大原薫事務局長から、去る5月12日に元副会長の中島國臣さんが逝去された旨の報告がなされ、出席者全員で黙祷をささげました。星野和央会長からも、生きている時を大事に、また、世代を超えて皆で力を合わせて次世代につなげていけるような活動をしていきたいというあいさつがありました。



議案第1号として、昨年度の支援活動、育成活動、広報活動などについて報告が行われました。議案第2号として収支決算が報告され、議案第3号、4号として今年度の事業計画案や予算案が提出されました。第1号から第4号まで全ての議案について、出席した全会員の賛同を得て承認されました。

また、来賓として、埼玉県国際課課長矢嶋行雄さん、社団法人協力隊を育てる会の業務二課長佐藤奈保子さんから、それぞれの活動をふまえた祝辞をいただきました。(中島美都里)

## ★帰国隊員報告会

埼玉国際青年を育てる会の定期総会が開催されたあと、帰国隊員による報告会が行われました。

最初は、21年度3次隊としてタンザニアへ派遣された橋本正隆さんが、コンピューター技師としての活動を報告しました。コンピューター、ネットワークのメンテナンスや利用方法の教示などの活動報告を行い、あわせて、タンザニアの市場の様子などを動画で紹介されました。

2年間の活動報告を通して、人と人とのつながりや関係性を学んだということです。

身近な人を大切にするということ、家族を大切に思うという原点に帰ったという感想を述べていました。



次はソロモンへ派遣された浅香結実子さんが報告しました。21年度1次隊として理学療法士として活動をしてきました。人口53万人、岩手県の2倍の面積を持つというソロモンの紹介を行い、CBR(地域に根ざしたリハビリテーション)についての活動を報告しました。また、教育機関や職業トレーニングなどを通しての啓蒙活動についても報告しました。

そして、ソロモンと日本の違いやソロモンでの活動から学んだことなどを述べられました。



最後に、シニア海外ボランティア20年度3次隊として、獣医細菌学でシリアへ派遣された桜井健一さんが報告を行いました。シリア・アラブ共和国



の概要を説明され、ボランティアの活動や日常生活についての報告をしました。

アル・バース大学で学生、職員への細菌の分離、同定技術の指導を行い、学部卒業生の研究を支援したことについてもお話がありました。



3人の報告者はそれぞれ、日本から遠く離れた地で、歴史、文化の異なる環境下で活動を行ってきました。その中で、それぞれ充実した活動実績を挙げ、同時に、異なる歴史、文化に直接触れ、人々と関わりながら貴重な体験を積み重ねてきました。参加者も興味深く聞き入っていました。

帰国隊員報告会のあと、留守家族の方々と協力隊埼玉県OB会のメンバーを交え親睦会が短い時間でしたが、和やかに進められました。



(中島美都里)

## ★平成24(2012)年度壮行会

### ■ 1次隊壮行会

2012(平成24)年6月19日(火)

さいたま市商工会議所会館 1Fホール

ひと足早い台風4号の関東地方到来が心配される中、青年海外協力隊及び、シニア海外ボランティア24年度1次隊の壮行会が、埼玉国際青年を育てる会、青年海外協力隊埼玉県OB会の共催で開催されました。

今回はシニア隊員5名を含む総勢22名の派遣となり、ガーナを始め、キルギス、ウズベキスタン、タンザニアなど、合計19カ国への派遣となりました。

会場は隊員や家族の方々、関係者と総勢60名を超える参加でにぎやかな壮行会となりました。



家族と一緒に



まず、瀬島副会長の開会のあいさつ、そして来賓の方々の激励の言葉の後、隊員1人1人からの自己紹介、抱負などが力強い言葉で発表されました。

昨年の3.11東日本大震災の後、世界中で日本人の精神性の高さが評価される中で、派遣される方々の決意と情熱にあふれた一言一言は、参加していたすべての人々の心に響くもので、ご家族の中には涙ぐむ方もおられました。

また、OB会の方々の送る言葉も、先輩としての思いやりあふれるものでした。家族の方々からは不安と期待の入り混じった感想が述べられました。派遣される方々が一堂に会するのはこれが最後となるため、記念撮影の後は赴任国や、仕事の情報交換、連絡先の確認など、最後まで会場は熱気に包まれました。午後5時30分、心配された台風の影響もさほどのことはなく、名残を惜しみつつ壮行会は閉会となりました (樋口暁子)

## ●家族の声

本日の壮行会ありがとうございました。

娘は母親となんでも相談して決め、父親の私は娘が協力隊の試験を受けたことも知りませんでした。本日、娘の挨拶を聞いて、正直涙が出るほど感激しました。

また、隊員のみなさまの立派な決意を見て本当にうれしく思いました。



和やかに出発を祝う

軽食付きの歓談に入ると場はすっかりなごみ、隊員同士の情報交換もさかんに行われました。



笑顔で語り合う

会の終わりのほうで隊員OBたちの言葉がありました。

かなり具体的なアドバイスが続き、派遣隊員たちはじっと耳を傾けていました。

なお、今回の派遣先は、ウガンダ、ボツワナ、ガボン、チュニジア、ペルー、グアテマラ、メキシコ、トンガ、パプアニューギニア、フィリピン、ウズベキスタンの11か国、職種は村落開発普及員、コンピューター技術、理学療養士、生態調査、環境教育、青少年活動、気象予報などです。

(山田 洋)

## ■2次隊壮行会

2012(平成24)年9月21日(金)

さいたま商工会議所会館1Fホール

彼岸入りし記録的な猛暑もついに和らいだこの日、13人の派遣隊員(一人欠席)を送る会が開かれました。

埼玉国際青年を育てる会の星野会長の挨拶に始まり、JICA地球ひろばの橋口次長、埼玉県国際課の小川主幹、(社)協力隊を育てる会の奥永事務局長がそれぞれ心こもった激励の言葉を述べられました。

折しもJICA広尾センター最後の日でもあり、感慨深い出席者も多かったようです。



派遣されるみなさん

続いて隊員の自己紹介があり、青年海外協力隊員たちは自分の抱負を短い時間で明瞭に披露し、3名のシニア海外ボランティアは気負うことなく、自分の専門分野について語っていました。

## 帰国してから

### ■古澤直道(さいたま市)

11年度2次隊 ポーランド 野球  
新しいことに挑戦し続けたい

私は大学まで野球をやり野球で役に立てること、何か恩返しできることはないかと考え青年海外協力隊に参加したのが理由だ。

任地はヤンシェンビエズドルイ市という首都ワルシャワから電車とバスを乗り継ぎ約5時間のチェコ共和国との国境近辺の小さな街だった。

そこで、学校単位で子供から大人までを対象に野球の普及活動を行った。ポーランド共和国といえば東欧でサッカーが人気スポーツの代表であり、野球を知る人は少なく、ボールを器用に足で捕る!? 止めるレベルで、まずはルールの説明からスタートした。

活動する中で一番苦労したのは道具の確保だった。出身高校や野球連盟に手紙を書き協力を頂いたりもしたが量的には足りるはずがなく、ベース、ボールなど手作りできるものは選手、その家族と協力して対応した。

オリンピック出場をかけたヨーロッパ選手権出場の際、代表チームの監督をやらせて頂きベルギーに遠征したことは忘れられない思い出のひとつ

つだ。

帰国前には市と市民の協力でサッカーグラウンドだった場所に野球場が建設された。もちろん観客席やスコアボードもないがみんなで作った素晴らしい野球場だ。



帰国して現在のトキタ種苗株式会社に入社し今年で11年目。トキタ種苗株式会社は野菜、花卉の品種開発、生産、販売及び農業資材の開発、販売をおこなっており、海外は中国、インド、イタリア、アメリカに拠点をもつ。

社員には青年海外協力隊出身者が男女合わせて20名おり、私は販売部に所属している。農業という分野は初めてだが、非常に奥が深く悪戦苦闘の毎日だ。

ポーランドでは、諦めず地道に情熱をもってやれば必ず道が開けることを学んだ。現在競合他社との競争は激しいが諦めず、情熱をもって農家さんと接することを心掛け、新しいことに挑戦し続けたいと思う。

#### ちょっとひとこと

- ①古澤さんは協力隊出身の社員としては唯一の埼玉県出身者だそうです。今年の夏の甲子園で大活躍した浦和学院出身。原稿を頼んだら翌日書き上げてくれた。今年4月長男誕生とのことです。
- ②古澤さんの原稿では協力隊出身の社員は20名とありますが、21名在籍、9月には更に2名が入社予定とのことです。

#### トキタ種苗(株) JICA 理事長表彰を受ける

当会の法人会員である、トキタ種苗株式会社(代表取締役会長・時田 勉)は、国際協力など JICA の業務推進に対して目覚ましい功績があったとして、去る10月3日理事長表彰を受賞しました。

社員の20%が協力隊OBであり、当社に対しても多大な協力をいただいています。

#### ■新川美佐絵

13年度3次隊 ウズベキスタン 観光業  
現・JICA 埼玉デスク 国際協力推進員  
8年ぶりに第二のふるさとへ

私は2002年、ウズベキスタンの首都に観光業隊員として派遣されました。しかし、巨大な国営旅行会社に配属された私は、早々に招かれざる存在であることに気づいたのです。私は活動計画の作成だけで、計画に必要なお金は持って行ける立場ではありませんでしたので。彼らが本当に必要としていたのは投資でした。強固なトップダウン社会の中、配属先の人が悪気なく発する「君は何しに来たの?」という言葉に傷つき、無力さに打ちひしがれる毎日が1年半続き、他の隊員が活動のまとめに取りかかる頃、世界遺産のヒヴァに居を移して活動を再スタートしました。

帰国後7年以上も任国を訪問しなかったのはなぜか、自分でもわかりませんが、最後1年ヒヴァで活動ができたことで、海外ボランティアという15歳からの夢に決着をつけた気になったのかもしれない。また、隊員の進路についてシビアな意見が強い中、ウズベキスタンから距離を置き、協力隊OGという立場から離れて次の場所を見つけることで「協力隊は行きは良い良い帰りが怖い」



という一般社会の風潮に異論を唱えたい気持ちもありました。

そして今年ウズベキスタンを訪問し、帰国以降初めて元カウンターパートに会いました。「自分が日本で研修を受けて10年、ミサエと働いて8年、今ようやく政府が観光振興の重要性に気付いて、行動を起こすようになった。あのときミサエと計画したけれど、月150ドルの運営費がなくて実現できなかった空港の観光案内所も、行政がようやくその必要性を理解して着手しようとしている。レストランのサービスやトイレといった細かいけれど大事な部分にも、毎月のように首都から担当者が視察にやってきて改善を図るようになった」

と話してくれました。彼が繰り返す「ミサエ、10年だよ。ようやく形になりつつあるよ」という言葉がとても印象的でした。現地ではお世話になった人のB&Bに宿泊しましたが、彼は決して宿泊代を受け取りませんでした。「今の私はただの旅行者だから払わせて」というと、彼は「ミサエは昔ヒヴァで色々やってくれたじゃないか。今どんな立場かは関係ない」と言ってくれました。しかし当時、ヒヴァにたくさんの観光客を呼ぶ、来た人に喜んでもらう、という目標をかかげて活動していた私にとって、次の言葉は特に嬉しいものでした。「今、たくさんの観光客がきてうちに泊まってくれる。だからミサエが払ってくれなくても大丈夫だから」。

多くの協力隊員が「任国が大好きになりました」と言って帰ってきます。私は帰国時、色々な思いがありすぎて素直にそう言えなかった少数派の一人でした。しかし今回の訪問を経て心から言えそうです、「ウズベキスタンは第二の故郷です」と。

#### ●新会員の紹介(34号発行以降入会の方)

大庭 英雄 (さいたま市)	古市 勝江 (軽井沢町)
井上 泰一 (さいたま市)	小泉 和義 (日高市)
金子 正志 (宮代町)	山岸 薫 (新座市)
宮城 正 (滑川町)	細川 邦子 (さいたま市)
上田 健司 (久喜市)	三原 利彦 (さいたま市)

## 《お知らせ》

### 1 中島副会長及び内藤理事の逝去

創設時からのメンバーであり、当会の発展のために大変な努力をされた中島國臣副会長が5月12日に肺癌のため67年の生涯を閉じられました。

また、当会の理事として尽力されるとともに、好きな山への恩返しとして100年の森づくりに情熱を傾けていた内藤勝久理事が、その好きな山で8月4日72年の生涯を閉じられました。

謹んでご報告いたします。

### 2 帰国隊員報告会の開催

11月17日(土)午後2時から、埼玉会館7A 協力隊2人、シニア1人の貴重な経験談をお話いただきます。会員以外の方でも歓迎いたします。お知り合いの方、中学生や高校生など若い人などにお声をかけてください。

### 3 家族連絡会の開催

平成25年3月3日(日)午後1時半(予定)から、大宮ソニックシティ 906

現在派遣されている隊員の御家族のために、隊

員をサポートする制度などを説明するとともに、帰国した隊員OBと懇談し、いろいろな情報を持ち帰っていただくため、JICA主催、協力隊OB会と当会が共催して開催します。改めてJICAから通知が届きますので是非御出席ください。

### 4 当会の英語表記

海外からの文書を受ける必要があり、急速、県の国際課と相談して決めました。

Saitama Association for International Youth Volunteers

### 5 JICA 地球ひろばの移転

前号でお知らせしたとおり、青年海外協力隊の聖地とも言える「JICA 地球ひろば」(前JICA 広尾センター)が、9月22日市ヶ谷に移転しました。

〒162-0845 東京都新宿区市谷本村町10-5  
JICA 市ヶ谷ビル内 TEL 03-3269-2911

### 6 (社)協力隊を育てる会の移転

当会と密接な関係にある「社団法人協力隊を育てる会」は、7月23日市ヶ谷に移転しました。

〒162-0845 東京都新宿区市谷本村町3-18  
エムズビル4階 TEL 03-6265-3982

特に、御家族の方にとっては、派遣中の隊員に会える「視察の旅」の主催者として貴重な支援団体です。



## ■編集後記

日本の国際化が各分野で叫ばれて久しいのですが、今年の夏ほど、日本人一人一人が日本人としての自分のあり方に目を向けたことは、なかったのではないのでしょうか。今こそ、政治、経済、宗教の枠を超えた、人と人とのつながりを信条とする「協力隊」が、真価を発揮する時です。チュニ料理クスクスを共に食べ、フィリピンで保護施設の子どもたちに優しく寄り添う隊員たちが、その最前線です。国境を越えて活躍する隊員、それを支援する会員、そして次世代を育てる出前講座等、この紙面を使ってもっともっとアピールして行ければと思っております。(小島章裕)

- ・発行：埼玉国際青年を育てる会
- ・編集：広報委員会
- ・事務局：さいたま市浦和区領家  
3-19-9-1101(大原事務局長宅)  
TEL/FAX：048-637-8884  
Mail：knikoniko789@road.ocn.ne.jp
- ・ホームページ：http://a-aaa.jp/kokusai/